

倫理学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
倫理学特論Ⅱ	ジェンダー/セクシュアリティと倫理	2	小松原 織香	前期 火曜日 2講時
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	小松原 織香・村山 達也	前期 月曜日 5講時
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	小松原 織香・村山 達也	後期 月曜日 5講時
倫理学研究演習Ⅰ	フランス倫理学演習	2	村山 達也	前期 水曜日 2講時
倫理学研究演習Ⅱ	フランス倫理学演習	2	村山 達也	後期 水曜日 2講時
倫理学研究演習Ⅲ	論証で辿る西洋倫理学史	2	村山 達也	前期 金曜日 2講時
倫理学研究演習Ⅳ	人文学の意義を倫理的に考える	2	村山 達也	後期 金曜日 2講時
倫理学研究演習Ⅴ	ジェンダーの視点から倫理を議論する	2	小松原 織香	前期 月曜日 3講時
倫理学研究演習Ⅵ	ジェンダーの視点から倫理を議論する	2	小松原 織香	後期 月曜日 3講時
倫理学研究演習Ⅶ	環境の視点から倫理を議論する	2	小松原 織香	前期 水曜日 4講時
倫理学研究演習Ⅷ	環境の視点から倫理を議論する	2	小松原 織香	後期 水曜日 4講時

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture II)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM12204, 科目ナンバリング：LIH-PHI620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダー/セクシュアリティと倫理

2. Course Title (授業題目)：Gender/sexuality introduction

3. 授業の目的と概要： 応用倫理学では、理論だけではなく、社会問題が起きている現場のリアリティを学びながら、「私たちはどう行動すべきか」を検討しなければなりません。本講義では、ジェンダー/セクシュアリティをテーマに挙げ、社会問題の背景にある歴史的な文脈・社会構造を学びながら、倫理的考察を進める方法を学びます。狭義の倫理学の知識だけではなく、社会学、心理学、歴史学等の知見を援用しながら、授業を進めます。

本講義はケーススタディを行います。センシティブなテーマも扱うので、受講する前に必ず内容を確認して、慎重に判断してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In applied ethics, we must examine "how we should act" while learning not only theory but also the reality of the field where ethical conflicts are arising. This course highlights one of the most controversial topics of our time, gender/sexuality, and promotes ethical reflection while studying the historical context and social structure behind social conflicts. The course will not only focus on knowledge of ethics in the narrow sense, but will also refer to findings from sociology, psychology, history and other disciplines.

This lecture will be based on case studies. I will also deal with sensitive topics, so please be sure to check the content and make a careful decision before attending the course.

5. 学習の到達目標：(1)ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識を身につける。

(2)社会問題の背景にある構造や歴史的な文脈・社会構造について理解する。

(3)実際に起きている社会問題を、倫理的に検討するための基礎的な技術を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire a basic knowledge of gender/sexuality.

(2) To understand the structures behind ethical conflicts and the historical context and social structures.

(3) To develop basic skills to examine actual social phenomena from an ethical point of view.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回： 「なぜ、ジェンダー/セクシュアリティについて学ぶのか？」(授業ガイダンス)

第二回：「男女平等であるべきか？」(フェミニズムの歴史、バックラッシュ、トランス差別等)

第三回：「家族は大事にすべきか？」(家父長制、軍隊と家族、人口政策、同性婚等)

第四回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第五回：「家庭内の暴力に第三者は介入すべきか？」(DV、児童虐待等)

第六回：「性暴力被害者を支援すべきか？」(司法制度内の性差別、トラウマ、被害者支援等)

第七回：「性表現を規制すべきか？」(マスメディアの性差別、ポルノ問題、インターネット等)

第八回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第九回：「男女は同じ労働をすべきか？」(教育・労働・スポーツにおける性差別等)

第十回：「性労働を合法化すべきか？」(避妊法、HIV/性感染症、セックスワーカーの権利等)

第十一回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第十二回：「薬剤による中絶を認めるべきか？」(中絶、ピル等)

第十三回：「障害を持つ子どもにも権利を保障すべきか？」(障害者運動の歴史、出生前診断等)

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎時間、コメントシートを書いてもらいます。人数に応じて小グループで議論する機会を持つことがあります。積極的な授業参加を評価します。

みなさんから寄せられた質問に回答する回を定期的に設けます。

授業の理解度に合わせて進むスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

8. 成績評価方法：

出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

9. 教科書および参考書：

教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学 ジェンダー論入門』第3版、有斐閣アルマ、2019年。

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

1 0. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：倫理学総合演習 I / Ethics (Integration Seminar I)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香, 村山 達也

コード：LM11505, 科目ナンバリング：LIH-PHI622J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行ない、特定質問者や他の参加者からの質問に答える。倫理学にかかわる問題について考えを提示し、議論する訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Participants will give presentations based on their research topics and answer questions from a discussant and other participants. Participants will be trained to present and discuss their thoughts on issues related to ethics.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらい力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through presentations and discussions, students will simultaneously develop the ability to have others understand their own ideas and to understand the ideas of others.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

基本的には対面、特別な事情のある場合のみオンラインで開催します。資料や情報は classroom を使用して発信します。

1. ガイダンスと発表予定の決定

2. 発表と討論 2

3. 発表と討論 3

4. 発表と討論 4

5. 発表と討論 5

6. 発表と討論 6

7. 発表と討論 7

8. 発表と討論 8

9. 発表と討論 9

10. 発表と討論 10

11. 発表と討論 11

12. 発表と討論 12

13. 発表と討論 13

14. 発表と討論 14

15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：小松原 織香, 村山 達也

コード：LM21505, 科目ナンバリング：LIH-PHI623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行ない、特定質問者や他の参加者からの質問に答える。倫理学にかかわる問題について考えを提示し、議論する訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Participants will give presentations based on their research topics and answer questions from a discussant and other participants. Participants will be trained to present and discuss their thoughts on issues related to ethics.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらい力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through presentations and discussions, students will simultaneously develop the ability to have others understand their own ideas and to understand the ideas of others.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

基本的には対面、特別な事情のある場合のみオンラインで開催します。資料や情報は classroom を使用して発信します。

1. ガイダンスと発表予定の決定

2. 発表と討論 2

3. 発表と討論 3

4. 発表と討論 4

5. 発表と討論 5

6. 発表と討論 6

7. 発表と討論 7

8. 発表と討論 8

9. 発表と討論 9

10. 発表と討論 10

11. 発表と討論 11

12. 発表と討論 12

13. 発表と討論 13

14. 発表と討論 14

15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学研究演習 I / Ethics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM13207, 科目ナンバリング：LIH-PHI624J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：フランスの高校生用の哲学の参考書 Denis Vanhouette, Philosophie, Term L, ES, S (Collection ABC du BAC), Nathan, 2015 から一部を抜粋して読みます。この参考書は、意識、他者、言語、労働、社会、幸福などのさまざまな主題ごとに章が分かれており、各章とも、関連するさまざまな問題や、その問題にさまざまな哲学者が出した答えを紹介し、最後に大学入学資格試験（日本の共通テストのようなもの）の問題が載っている、という作りになっています。それぞれの

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read a philosophy textbook for French high school students. The prospective key themes covered are Work and Technology.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

演習内で扱われた主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM23208, 科目ナンバリング：LIH-PHI625J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習
2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy
3. 授業の目的と概要：行為の哲学や感情の哲学の分野で著名な哲学者であるクリスティーヌ・タポレの論文「自律と意志の弱さとをめぐるパラドクス」を読みます。「自律は自己コントロールを要求する（自分の行為を自分で決定するためには、自分で自分で制御できないといけない）」、「自由は自律を要求する（自由であるためには、自分の行為を自分で決定できないといけない）」、そして「意志の弱さによる行為も自由でありうる」という、一見すると自明な三つの命題から、パラドクスを取り出し、自由をめぐる問題に鋭く切り込んでいく、実質3ページ程度ととても短いなが
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Christine Tappolet's article "Autonomie et faiblesse de la volonté : un paradoxe". The key themes covered are: autonomy, weakness of the will, self control, and freedom of the will.
5. 学習の到達目標：自由や自律、意志の弱さの関係について学ぶ。
また、これらの主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）
第二回以降：訳読、報告、議論
8. 成績評価方法：
出席、担当、参加度により総合的に判断します。
9. 教科書および参考書：
必要なものはすべてプリントで配布します。
フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。
10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester： 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15206, 科目ナンバリング：LIH-PHI626J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：論証で辿る西洋倫理学史

2. Course Title (授業題目)：History of Western Ethics through Arguments

3. 授業の目的と概要：倫理学の醍醐味の一つは、道徳や幸福についてたんに意見を言うことではなく、そうした意見を根拠とともに主張したり、その根拠を吟味したりすることにあります。偉大な倫理学者たちが偉大なのにはさまざまな理由がありますが、その一つは、その人たちがしっかりした議論を作り、常識的な前提から、否定しがたいステップで、とてつもない帰結を引き出したりしたことに求めることができるでしょう。この演習では、プラトン以来の西洋倫理学史を、倫理学者たちのテキストから議論を再構成することを通じて学びます。

最初の数回で論証の再構成の仕方

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, we will learn the history of Western ethics since Plato through reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. In the first sessions, we will learn how to reconstruct arguments, and after that we will work on reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. Assignments are frequent. Active participation is required.

5. 学習の到達目標：西洋倫理学史について一定の知識を身につける。

論証の再構成ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this seminar is to acquire a certain knowledge of the history of Western ethics and to be able to reconstruct arguments.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(演習ですので、以下はあくまで予定であり、大いに変更の余地があります。)

第一回：ガイダンス

第二回：論証の再構成のやり方 (テキスト：野矢茂樹『新版 論理トレーニング』第四章)

第三回：論証の再構成のやり方 (テキスト：レイチェルズ「相対主義の挑戦」)

第四回：論証の再構成のやり方 (グーグルドキュメント上でダイアグラムを作る)

第五回：プラトン『ゴルギアス』より、不正を受けるよりもなすほうが悪いこと

第六回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、幸福が最高の善であること

第七回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、道徳的完成主義

第八回：トマス・アクィナス『神学大全』より、神の存在証明

第九回：ライプニッツ『理性に基づく自然と恩寵の原理』より、この世界が最善であること

第一〇回：パスカル『パンセ』より、賭けの議論

第十一回：カント『道徳の形而上学の基礎づけ』より、幸福が最高の善ではないこと

第十二回：ミル『功利主義』より、功利原理

第十三回：ムーア『倫理学原理』より、自然主義的誤謬の批判

第十四回：マッキー『倫理学』より、誤謬理論の証明

第十五回：まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出70%、演習内のパフォーマンス30%。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてこちらで用意します。

10. 授業時間外学習：たびたび課題を出しますので、演習前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

論証の再構成や論理学を学んだことのない学生向けの注意：最低限の知識は演習内で説明しますが、論証の再構成や論理学について自習したり読書会をしたりすることは演習を受ける上で非常に有益です。教科書としては野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)やノルト、ロハティ『マグロウヒル大学演習 現代論理学 (I)』(オーム社)をお勧めします。

論証の再構成や論理学を学んだことのある学生向けの注意：この演習での第一の目標は、古典的なテキストから前提／帰結関係を大づかみに取り出すです。そのため、議論の妥当性をチェックし

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar IV)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM25206, 科目ナンバリング：LIH-PHI627J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文学の意義を倫理的に考える
2. Course Title (授業題目)：Value of Humanities: Examination from the View Point of Ethics
3. 授業の目的と概要：アメリカの哲学・倫理学者であるマーサ・ヌスバウムの『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』(岩波書店)を読み、人文学を学ぶ意義を主に(「倫理的」ではなく)倫理的な観点から考え、議論します。本書でヌスバウムは、タイトルに掲げた通りの問いに取り組みつつ、感情の道徳的価値、議論が民主主義にとってもつ重要性、文学作品を読むことの意義などを論じていきます。この演習では、担当者の要約を踏まえて参加者で議論したり、論証らしきものがあつたら再構成を試みたり、といった仕方で、ヌスバウムの議論を検討し、
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Martha Nussbaum's Not for Profit: Why Democracy Needs the Humanities, and discuss the significance of studying the humanities primarily from an ethical (not "ethical") perspective.
5. 学習の到達目標：人文学の意義について考え、一定の意見を形成する。
実践的な問題についての論証の再構成と検討や、自分なりの議論の提示ができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn how to examine the significance of the humanities.
Students will be able to reconstruct and examine arguments on practical issues and advance their own arguments.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：ガイダンス
第二回以降：担当者による要約と参加者全員による議論
8. 成績評価方法：
要約60パーセント、授業内パフォーマンス40パーセント
9. 教科書および参考書：
マーサ・ヌスバウム『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店(ただし、演習で用いる範囲についてはこちらで用意します)
10. 授業時間外学習：演習はみなさんの発言によって進みます。テキストをよく読み、検討し、反論や異見を考えておいてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：倫理学研究演習V／Ethics (Advanced Seminar V)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM11309, 科目ナンバリング：LIH-PHI628J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義(1)：テキストの背景
第三回：入門講義(2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解(1)
第五回：テキストの読解(2)(以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出してA41枚のレジメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません)自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

科目名：倫理学研究演習VI／ Ethics (Advanced Seminar VI)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM21307, 科目ナンバリング：LIH-PHI629J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義(1)：テキストの背景
第三回：入門講義(2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解(1)
第五回：テキストの読解(2)(以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出してA41枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年

科目名：倫理学研究演習Ⅶ／ Ethics (Advanced Seminar VII)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM13408, 科目ナンバリング：LIH-PHI632J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストは鬼頭秀一『自然保護を問いなおす 環境倫理とネットワーク』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A41 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。

科目名：倫理学研究演習Ⅷ／ Ethics (Advanced Seminar VIII)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM23407, 科目ナンバリング：LIH-PHI633J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義(1)：テキストの背景
第三回：入門講義(2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解(1)
第五回：テキストの読解(2)(以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストは 除本理史『きみのまちに未来はあるか? 「根っこ」から地域をつくる』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。